

学校経営報告

八王子市立第三小学校

校長 大宝院 清孝

◎今年度の成果と課題及び今後の方向性

(1) 学校教育目標(目指す児童像)に関すること

①「やさしく(品格)」の実現 - やさしい心もち、自分も人も大切に作る児童 -

◀目標①▶「挨拶」「言葉遣い」「返事」等の礼儀や規範意識の醸成

小学生としての自立の第一歩として、社会における常識、特に「挨拶」「返事」「言葉遣い」等の礼儀や規範意識について、授業、日常生活をとおして全教職員で指導し、身に付けさせる。

◀目標②▶将来の夢や生き方を考える力の育成

自分と社会との関係、社会の仕組みについて理解し、将来に対する夢をもてるようにするとともに、自らの生き方を考える力を身に付けさせる。

[成果指標]

◇児童アンケートの挨拶の項目で、最上位の回答(できる)の割合、70%以上を目指す。

◇保護者アンケートの「学校は子供の生活指導に熱心に取り組んでいる」について、肯定的に答える方の割合が90%以上になることを目指す。

◇保護者アンケートの「将来の進路や職業」の項目で、肯定的回答80%以上を目指す。

◇全国学力調査児童質問紙「将来の夢や目標をもっていますか」で、肯定的回答80%以上を目指す。

成果(◎)と課題(▼)

▼「挨拶」については、最上位の回答が55.3%であり、まだまだ目標値を大きく下回っている。来年度の目標を肯定的回答90%以上とする。

◎「生活指導」については、95.8%の保護者の方に肯定的な回答をいただいた。目標値以上となり、組織としての取組について、継続して評価していただいている。

◎▼「進路や職業」については、肯定的回答が73.3%で目標には届かなかったものの、前年度の53.5%19.8ポイント増えたことは、大きく評価できる。学校だよりでの情報提供が大きい要因だと考える。

◎質問紙の「将来の夢や目標」については、肯定的回答が90.9%であり、目標を達成した。

令和8年度の方向性(◇)

◇「支持的風土」のある集団づくりの徹底

1学期の4月時から「挨拶」「返事」「言葉遣い」等についての全体指導を継続していく。特に挨拶については、来年度より生活指導の重点の取組として各学級で活動内容を話し合い、主体的な挨拶運動を更に充実させるとともに、朝会などで活動を振り返り、より自分事と捉えられるようにしていく。

◇進路や職業

第六中学校地区のキャリア教育全体目標「地域を知り、地域で育ち、地域を創るをテーマに、各学年の発達段階に合わせたカリキュラムを設定し、自立した社会人を育成する」を目指し、各学年におけるキャリア教育を、学校便りや学校ホームページで積極的に情報提供する。

◇将来の夢や目標

各学年におけるキャリア教育を更に充実させる。6年生で取り組む「ドクター肥沼」の学習をとおして、自分の将来について考える活動を継続する。

②「かしこく(教養)」の実現 — 進んで学び、ねばり強く課題に取り組む児童 —

≪目標③≫「読む」「書く」「計算する」の定着

GIGA スクール構想に基づき、ICT を効果的に活用することで、「読む」「書く」「計算する」といったすべての学習の基盤となる力を小学校の責任として確実に定着させる。

≪目標④≫思考力・判断力・表現力の育成

問題解決的な学習(探求、活用)をとおして自ら考え、判断し表現する力を身に付けさせる。

≪目標⑤≫主体的に学習に取り組む態度の育成

児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるとともに、学校図書館を計画的に利用し児童の自主的・自発的な学習活動や読書活動の充実を図る。

[成果指標]

◇市の学力調査(4~6年)で、市平均を上回る。

◇1・2年生の算数について重点指導項目を明確にし、未習得児童へ組織的に支援する。

◇児童アンケートの「家庭学習」の項目で、肯定的回答 80%以上を目指す。

◇はちおうじっ子ミニマムの第一回目の結果が5割未満の児童が、第二回目で全員5割以上正答できることを目指す。(6年)

◇国の学力調査で、平均を上回ることを目指す。

◇市の学力調査で、思考力・判断力・表現力の結果が市平均を上回ることを目指す。

◇児童アンケートの「学校の勉強は楽しい」の項目で、肯定的回答が 80%以上を目指す。

◇おすすめの本10冊や学校図書館の本を年間100冊以上読む児童(1~3年)、また年間1万ページ以上読む児童(4~6年)など、表彰される児童が150名以上になることを目指す。

成果(◎)と課題(▼)

◎市の学力調査で、4・5・6年とも市平均を上回った。ただ、全国学力調査では、平均を下回っている現状を考えると、小中一貫で学力向上の取組をさらに充実させる必要があると考える。

▼1・2年生の算数については、まだ組織的系統的な仕組みはできていない。ただ、夏季休業中の補習タイムについては、今年度から管理職も含めて全教職員が補習教室に参加し、保護者のボランティアの方も参加できる形に整えることができた。今後、この仕組みを継続したい。

▼「家庭学習」の項目の肯定的回答は 75.8%で、目標を下回った。

◎▼はちおうじっ子ミニマムの第一回目の結果が5割未満の児童で、第二回目で5割以上正答できた児童が多数いたが、5割以下の児童が 2 名いた。

◎▼国の学力調査で、国語・算数・理科ともに、平均を下回った。

▼児童アンケートの「学校の勉強は楽しい」の項目で、肯定的回答は 77.6%で目標を下回った。

▼表彰されたは、合計で111名である。今後も取組を継続していく。

令和8年度の方向性(◇)

◇はちおうじっ子ミニマムの効果的活用

市独自の学力調査はちおうじっ子ミニマムの結果を、学年専科で共有し、日常の授業の中で意図的な指導を継続する。補習タイムや夏季休業中の補習教室について、六中生ボランティアや保護者ボランティアの力を借りながら、基礎学力を定着させる時間として充実させる。また、低学年算数の基礎的な力の定着を、確実に確認して支えていく取組を進める。

◇図書指導の充実

図書の表彰については、学期末の朝会で全校表彰し意欲を高める。今年も三小支援ボランティアの皆様や保護者の皆様の協力で、寄贈本を集めることができ、学級文庫を充実させることができた。こちらも、毎年継続していきたい。

③「たくましく(壮健)」の実現 — 自分から心や体を鍛え、前向きに行動する児童 —

≪目標⑥≫体力の向上

運動への関心を高めるとともに、児童の体力の状況を把握し、強い心と体力向上を図るための独自の取組を進める。

≪目標⑦≫食育の推進

食材、食文化を大事にし、食に対する感謝の気持ちを育む食育を、栄養士との連携のもと推進する。

[成果指標]

- ◇体力調査の結果の合計得点が、全学年、都平均を上回ることを目指す。
- ◇ソフトボール投げの結果において、全学年、都平均を上回ることを目指す。
- ◇年間6回の食育の取組を実施し、ホームページにアップして保護者への理解を図る。

成果(◎)と課題(▼)

- ▼体力調査の合計得点が都平均を上回ったのは、男子1・2・3年、女子1・2・3・4・5年であり、目標にはまだ届かなかった。数値的には、前年度よりもよくなっている。
- ▼ソフトボール投げで都平均を上回ったのは、女子は1・2・3・4・5・6年の全学年であり、男子は1年のみ上回った。
- ◎年間11回の食育の取組を実施し、ホームページにもアップした。

令和8年度の方向性(◇)

- ◇全体的な体力向上策
年間を通じた体育授業内の工夫、放課後子供教室の充実(5日間実施と朝 Viva)を継続する。
- ◇投能力の向上
投能力の向上に向けて、4・5月だけでなく年間を通して体育の授業を中心に運動を継続していく。

(2) 学校経営上の視点に関すること

①特色ある学校づくりの推進

≪目標⑧≫三小支援ボランティアとの連携

学習支援コーディネーターを中心とした三小支援ボランティア(学び、遊び、図書)や Cocco 等との連携により、学習環境の整備、教育活動の充実に努め、学校の特色としての教育(共育)を推進する。

≪目標⑨≫郷土学習の推進

郷土学習の推進に向け、市制100周年事業で取り組んだ内容を基盤に、継続して八王子の歴史や文化、自然に対する理解を深め、より一層八王子市への愛着や八王子市民としての誇りを育む。

[成果指標]

- ◇地域アンケートの「教職員は地域を大切にしている」の項目で、肯定的回答90%以上を維持する。
- ◇全ての学年で八王子の歴史や文化、自然を学ぶ学習活動を充実させる。
- ◇絵画交流を持続可能な取組とする。(1・2・3年)

成果(◎)と課題(▼)

- ▼「教職員は地域を大切にしている」の肯定的回答は、88.6%であり目標をわずかに下回った。
- ◎全学年で、八王子の歴史や文化、自然を学ぶ学習活動が実施できた。
- ◎展覧会でヨハニッター小学校の作品を展示することができた。

令和8年度の方向性(◇)

- ◇地域行事への参加
年間の地域行事を「地域行事一覧」としてまとめ、実施できる行事から計画的に参加できる体制を作る。
- ◇ヨハニッター小学校との交流
より費用対効果の高い交流活動があれば、その方向へ発展させていく。

②人権教育の推進

≪目標⑩≫人権尊重教育推進校としての取組の継承

2年継続研究の2年目として、研究推進委員会を中心に昨年度までの研究成果と課題に基づいた実践を進める。とともに「自分も人も大切に作る児童の育成」に向けて、教職員で共通理解を深め、令和6・7年の研究は『豊かなかわりを育む指導を通して』を進めていく。

[成果指標]

- ◇児童アンケートの「自分のことが好きである」の項目で、肯定的回答が80%以上を目指す。
- ◇児童アンケートの「困っている友達がいたら助ける」の項目で、肯定的回答が90%以上を目指す。
- ◇児童アンケートの「自分の思っていることや意見を言うことができる」の項目で、肯定的回答が80%以上を目指す。

成果(◎)と課題(▼)

- ▼「自分のことが好きである」の肯定的回答は、79.1%で目標をわずかに下回った。
- ▼「困っている友達がいたら助けてあげる」の肯定的回答は、89.6%で目標をわずかに下回った。
- ▼「自分の意見を言うことができる」の肯定的回答は、76.3%で目標を下回ったが昨年度より3ポイント増えている。

令和8年度の方向性(◇)

◇自己肯定感の向上

校内研究の「自分も人も大切に作る児童」を目指して授業づくりに取り組んでいく。年間6回の授業研究を行い、年度末に成果をリーフレットにまとめる。

◇自分の意見を言うことができる

ギャラリートークの取組を計画的に行い、朝鑑賞の実践を取り入れていく。

③小中一貫教育、保幼小連携教育の推進

≪目標⑪≫小中一貫教育の充実

小中一貫教育を継続、充実させ、義務教育9年間で常に意識した教育が恒常的に実践できるようにするとともに、小中の円滑な接続を実現する。

≪目標⑫≫保幼小連携の継続

八王子市の保幼小連携として、近隣の保育園・幼稚園にもその輪を広げ、保育園・幼稚園と小学校の生活と学びの円滑な接続を考えることができるようにする。

[成果指標]

- ◇学校の小中一貫教育に対する取組姿勢について、保護者の肯定的割合が90%以上を目指す。
- ◇各分科会で共通テーマを設定し、年度末には発表する。
- ◇1年生のスタートカリキュラムを計画的に実施する。
- ◇保護者アンケートの「保幼小連携」の項目で、肯定的回答90%以上を目指す。

成果(◎)と課題(▼)

- ◎「小中一貫の取組を知っている」の肯定的回答は、98.3%であり目標を大きく上回った。
- ◎各分科会で話し合いを重ね、今年度は「総合学習」について、小中9年間の系統性を表にまとめ、年度末のまとめの会で発表した。
- ◎1年生のスタートカリキュラムを、年度当初から意識して取り入れることができた。
- ▼「保幼小連携」の肯定的回答は、85.3%で、目標には届いていないが昨年より5ポイント増えた。

令和8年度の方向性(◇)

◇保幼小連携の周知

保幼小連携の取組は充実し、持続可能な仕組みも完成した。今後、学校ホームページの充実を中心に活動や取組の周知を行っていく。

④安心・安全な学校づくりの推進

≪目標⑬≫「いじめ」「不登校」への組織的対応

「いじめ」「不登校」や配慮を要する児童の情報の共有化を進め、組織対応の体制を整える。

≪目標⑭≫安全体制づくり

校内外の児童の安全体制を整備すると共に教職員の危機意識を高める。

[成果指標]

- ◇保護者アンケートの「学校はいじめに適切に対応し、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」について、肯定的に答える割合が90%以上になることを目指す。
- ◇登校支援対策としての居場所づくりを、組織的に進める。
- ◇実際に起きた時のことを想定して、予告なしの避難訓練の内容を充実させる。
- ◇給食アレルギー事故、交通事故等の大きな事故は0を維持する。

成果(◎)と課題(▼)

- ◎「いじめ対応」の肯定的回答は、90.1%であり目標を上回っている。
- ◎登校支援対策としての居場所づくりとして、別室指導の体制づくりや登校支援コーディネーターの活用など、組織的な取組が進んだ。
- ◎給食アレルギー事故、交通事故等の大きな事故は0を維持できた。

令和8年度の方向性(◇)

◇いじめ対応についての理解啓発

毎週火曜日の6時間目の時間に、学校いじめ対策委員会を毎回開き、いじめ対策委員会の内容について学校便りやホームページ等で保護者・地域の方に伝えていく。

◇交通事故0にむけて

年度当初の交通安全指導での交通ルールを守ることの意義を確認するとともに、校舎内の交通ルールを守ることが校外での危機意識を高めることを自覚して繰り返し指導する。

⑤組織体としての学校機能の発揮

≪目標⑮≫校務分掌の効率化

教職員一人一人が分担された校務に責任をもつとともに、主幹及び各分掌の主任、副主任がその機能を十分に発揮し、会議の効率化を図ることで、児童の教育活動のために割く時間をできるだけ確保する。

≪目標⑯≫学校評価の活用

学校運営協議会を通して、教職員、児童、保護者、地域アンケートを活用した学校改善のための評価システム(マネジメントサイクル)を一段と充実させる。また、学校の情報を主体的に発信する。

≪目標⑰≫環境保全の推進

学校管理部門(事務、用務、栄養士)と管理職、教員との連絡、連携により、文書処理等の業務の効率化と教育活動の円滑な推進、児童安全、環境保全に努める。

[成果指標]

- ◇各分掌、また各業務における仕事歴を作り、初めて取り組む人でも業務が進められる資料を作る。
- ◇保護者、地域アンケートにおいて、「学校は保護者、地域に対して適切に情報を提供している」の項目で肯定的回答を保護者・地域ともに90%以上を目指す。
- ◇電気使用量、コピー使用料において、前年度比-を目指す。
- ◇学校配当予算、人権教育予算の執行率を管理職、担当者、事務の密な連携により極力100%に近づける。

成果(◎)と課題(▼)

◎各分掌、また各業務における仕事歴を作り、初めて取り組む人でも業務が進められる資料を作ることができた。まだ工夫改善の余地があるので、引き続きそうした視点で資料をブラッシュアップする。

◎「情報提供」の肯定的回答は、保護者 97.6%・地域 100%で目標を大きく上回った。

◎学校予算の執行率は非常に高く、ほぼ 100%に近い予算を有効に執行することができた。

令和8年度の方向性(◇)

◇情報提供の推進

引き続き「Home&School」の活用により、よりきめ細やかな情報を保護者の方に伝える。地域の方への情報は、学校便りと学校ホームページを中心とする。

⑥教員の資質・能力の向上

≪目標⑧≫同僚性の向上

教員同士が互いに学び合う「同僚性」を重視し、社会人として、専門職として、教育公務員としての常識と自覚、高い資質、能力を日常的な啓発により身に付ける。

[成果指標]

◇児童・保護者アンケートの「学校は落ち着いて学習できる雰囲気である」について、肯定的に答える割合が児童、保護者とも 80%以上になることを目指す。

◇保護者アンケートの「分かりやすい授業が行われている」について、肯定的に答える方の割合が 85%以上になることを目指す。

◇サービス事故0を維持する。

成果(◎)と課題(▼)

◎▼「落ち着いて学習できる雰囲気」の肯定的回答は、保護者 89.0%で目標を上回っているが、児童は 72.0%であり、目標を下回っている。

◎「分かりやすい授業」の肯定的回答は、90.1%であり目標を大きく上回っている。

◎サービス事故は0を維持できた。今後も軽微な交通事故も起こさないという自分事の意識を高める。

令和8年度の方向性(◇)

◇落ち着いて学習できる雰囲気をつくるために

安心して学習に取り組める支持的風土のある学級づくりを、年度当初に改めて徹底する。

◇分かりやすい授業のために

学年会等で教材研究を進めたり、自分で授業研究を深めたりできるよう、校務を改善し時間を生み出す。また、OJT の取組や校内研究の取組をととして授業力の向上を図る。